

確かな効能が物語る薬

名薬探訪 ● 「速治膏」「神僕湯」

養生堂漢方研究会・
薬剤師

加藤三千尋

筋、骨、神経痛、リウマチ痛に 確かな効き目。貼って飲んで、内と 外から痛みを癒す二つの家伝薬



江戸の昔から伝わる

家伝薬と整骨術

熊本県は玉名市にある吉田整骨院は、

整骨や整体の術を施す、いわゆる「ほねつぎ」として全国的にも著名である。また、家伝薬である「速治膏」や「神僕湯」の製造元としての顔も併せ持っている。

今日の、合資会社吉田整骨院製薬所のルーツを追い求めると、今から一〇〇年以上前の、江戸時代末期にまで遡ることができる。

もともと、吉田家は、熊本県玉

名市伊倉近郊で、農業によって生計を立てていた。

その傍ら、「速治膏」と「風血湯」

の二つの家伝薬の販売と、それを用いた整骨を兼業していたという。今日のような整骨術が確立していなかつた当時、当主の四代前の曾々祖父がどのようにして術を修めたかは、今となっては定かではない。

もちろん、業とはいっても、農作業などの重労働が主となる農村の暮らしの中で、在郷近隣の筋や骨を痛めた人相手に、慈善的に施術するようになったようだ。



愛用者はアジア、アメリカにまで広がる

「速治膏」は、古来より伝わる打ち身や捻挫の「小麦粉と酢を混ぜて貼る」民間療法を基本に漢薬を加えた膏薬である（正確には、粉

末を卵白で練ったものを和紙に延ばして患部に貼付する）が、これには興味深い伝説がある。

それは、「先代がいじめられていた河童を助けたお礼に教えてもらった」処方であるということだ。

このような河童が妙薬を伝授した伝説は全国各地にあるが、一説には、河童とは、遠い昔に渡来した漂流民であるともいわれる。

玉名近郊にも、中国からの漂流民の墓石があることから、この伝説もただの寓話ではない可能性を示唆しているものといえよう。

貼って効く『速治膏』 飲んで効く『神僕湯』

ところで、吉田家が今日のような、整骨院と家伝薬販売を生業とする道を拓いたのは、当主の曾祖父、三作の代である。

三作は、農業をやめ、居宅に「吉田筋骨専門院」の看板を掲げ、二つの家伝薬を柱とし、経絡学などの体系的な手技による、本格的な骨接ぎ、筋・骨の痛みの治療を始めた人物である。

三作の、我欲を捨てた真摯で親身な治療姿勢は、多数の患者を快癒へと導き、その評判は口伝えて広まっていったという。

時代は昭和となり、天霊の時代へ。吉田筋骨専門院の盛況は依然として続いた。しかし、うねりくる時代の波が、それを暗転させた。

それは、太平洋戦争の戦況悪化による原料統制のため、熊本県内

の製薬所が一つに統合させられ、『速治膏』と『風血湯』の製造が休止となったことである。

終戦後の混乱の中、天霊は整骨薬を再開するが、光明が差したのは、家伝薬の製造申請が再開された昭和二三年のことである。

これを契機に、もともとは血の道用の煎じ薬であった『風血湯』



「速治膏」

効能●骨折、ねんざ、脱臼、打撲傷、すじの痛み、関節炎、神経痛、リウマチ、肋間神経痛、腰痛み、肩のこり、しもやけ



「神僕湯」

主治・効果●神経痛、リウマチ、関節炎、病後足腰の痛み、打撲熱、感冒、筋肉痛、頭痛、めまい、便秘、疝痛

の処方改良を加え、研究の末、筋・骨専門に、体内の気・血・水の滞りを解消する新処方である今日の『神僕湯』を完成させた。

ちなみに、『神僕湯』とは、神経痛の「神」とリウマチの当て字である僕麻質斯(ロイマチス)の「僕」がその名の由来である。

昭和三〇年、『神』の製造許可があり、これにより「貼って外から効く速治膏、飲んで中から効く神僕湯」としての体が整った。尚、現在の社名もこの時に改められたものである。

海外からも支持される 確かな効果

天霊の長男である龍介は、東京を中心に『速治膏』と『神僕湯』を用いた、独自の療法の敷衍に全国の薬店を行脚している。

自宅に印刷機を設置し、会報誌を発行、販売と啓蒙という手段を

取り入れ、整骨院での施術以外にも販路を広げること成功している。これは、何よりも、二薬の効果の確かさを裏づける話といえる。

現在では、愛用者は、国内のみならず、韓国や台湾、東南アジア諸国、アメリカ本土、ハワイなどの整骨院にまで広がっているという。また、著名な柔道家が膝関節の治療に用いているという、公然の秘密も聞えてくるほどだ。

時代は二一世紀となり、吉田整骨院製薬所と吉田整骨院は、新たな歴史を刻み始めた。

吉田整骨院のモットーは、「佛手佛心」(佛のような心を、佛のような優しい手技に込めて、筋、骨、神経痛、リウマチ痛に悩む患者に尽くす)である。

これに忠実に、『速治膏』と『神僕湯』、二つの家伝薬の効能を絶やすことなく、末水く後世に伝えていくことであろう。